

光村図書「美術Ⅰ」 年間指導計画案

各学校における美術の年間指導計画を作成するには、学習指導要領にのっとり各領域・分野をバランスよく配列することが大切です。その際、文化祭や展覧会などの学校行事や地域の文化的な催し、近隣の美術館の展示内容なども考慮した内容にしたいものです。また、年間指導計画の作成と指導の工夫に際しては、教科書の各題材などを参考に、生徒一人一人が主体的に表現や鑑賞の学習ができるように配慮し、一人一人に適した指導ができるように学習環境を整えることも重要です。同時に、題材を通して生徒のどのような力を育てるのか、目標を明確にすることも大切です。

ここにご紹介する年間指導計画案が、先生方のご指導の一助となれば幸いです。

計画1…短時間の題材を中心に構成した年間指導計画例

計画2…長時間の題材を中心に構成した年間指導計画例

計画1 【短時間の題材を中心に構成した年間指導計画例】

光村図書 『美術Ⅰ』 使用		年間 70 時間 ・ 3 学期制（1 学期 26 時間・2 学期 32 時間・3 学期 12 時間）／2 学期制（前期 30 時間・後期 40 時間） ・ 前期 26 時間の後、夏休みが入る想定。				
学期	時数	活動	題材	学習内容や育てたい力	対応する教科書のページ	
前期 30 時間	1 学期 26 時間	1	鑑賞／全	人はなぜ、描き、つくるのだろうか？	教科書の作家の言葉や表現活動を参考にしながら、なぜ美術を学ぶのか、これからの自分と美術の関わりをイメージしながら考える。	5～7, 全
		1	表現／ 絵画・彫刻	短時間で描く ～クロッキー～	身近な物や人物などを観察し、短時間で形を捉え、表現する力を育てる。	8～9, 29
		4	表現／ 絵画・彫刻	形と調子を捉える ～鉛筆デッサン～	遠近法や光の描き方によって変化する物体の見え方の違いを感じ取り、表現する力を育てる。	16～17, 68～69
		2	鑑賞／ 絵画・彫刻	東西比較・空間表現	ゴッホやダ・ヴィンチの作品、「洛中洛外図屏風」などを比較しながらさまざまな空間表現を知る。	12～17, 34～35
		10	表現／ 絵画・彫刻	校内の風景を描く	見慣れた校内の風景を、視点や遠近感の表現を切り口に見つめ直し、水彩などで表現する。	12～13, 16～17 70～71
		8	表現／映像 メディア表現	ピクシレーションで映像をつくる	身近な物を使って、現実にはあり得ない動きをする映像をつくる。アニメーションの原理を理解し、表現する。	58～59, 62～63
	夏季休業		表現／映像 メディア表現	日常を捉える (夏季休業中の課題)	夏季休業期間中に、日常の1コマを携帯端末やデジタルカメラで捉え、自分の思いを表現する。	54～57
	2 学期 32 時間	2	鑑賞／映像 メディア表現	日常を捉える	夏季休業中の課題を発表し、お互いの作品を鑑賞することで自分や他人の思いについて考える。	54～57
			鑑賞／ デザイン	暮らしの中の文様	世界の文様表現について、文様に込められた意味や成り立ちを理解する。	44～45
		10	表現／ デザイン	自分文様で手ぬぐいを染める	自分や、自分の所属する部活、自分に関わるものなどをあらかず文様を考え、スタンプを制作し手ぬぐいにプリントする。	18～19, 44～45 76
表現／全			トリックアート展を開催する	視覚のトリックを利用した作品を味わい、それを基に制作し、文化祭で展示する。来校者が楽しめるよう展示を効果的に工夫する力を育てる。	20～23, 33, 77	
後期 40 時間	10	表現／ 絵画・彫刻	場所と対話する彫刻	作品を展示する場所との関係を意識した彫刻を制作する。大きい屋外彫刻の場合は、ケント紙などで模型をつくり、構想を練る。	32～33	
		表現／ デザイン	グリーティングカード	紙を生かしたデザインで配色なども工夫し、季節を感じさせるグリーティングカードを制作する。	46～47, 78～80	
		鑑賞／全	現代の美術	現代美術の多様性と背景を知ること、作品に対する自分の考えをもつとともに、美術文化への理解を深める。タブレットやスマートフォンの使用が可能であれば草間彌生作品を AR で鑑賞する。	全	
	3 学期 12 時間	2	鑑賞／全	私と美術 ～今までとこれから～	これまでの学習活動を振り返り、美的な能力の向上を感じ取ったり、今後の美術との関わりをイメージしたりする。	全

配列のタイプ

- 1 年間で、A 表現、B 鑑賞の各学習活動を偏りなく行う。
- 全体を通して生徒の興味関心が高いものをバランス良く配列し、授業への意欲が持続するよう配慮する。

特 色

- 年度の前半では、題材の流れが形や色彩、材料、光などの造形的な要素によって滑らかに関連していくよう留意する。
- 年度の後半では、学校行事や季節など、題材と日常環境が関連づけられるよう留意する。

計画作成上の留意点

- 文化祭が前期（1 学期）に実施される場合は、適宜題材を移動させて実施する。
- 「デザイン」と「映像メディア表現」については、「映像メディア表現」において目的や機能などを考えた表現を取り扱う場合、「デザイン」といづれか一方を選択して扱うことができる。（学習指導要領解説 p. 61）

計画2 【長時間の題材を中心に構成した年間指導計画例】

光村図書 『美術1』 使用		年間70時間 ・3学期制（1学期26時間・2学期28時間・3学期16時間）／2学期制（前期30時間・後期40時間） ・前期26時間の後、夏休みが入る想定。				
学期	時数	活動	題材	学習内容や育てたい力	対応する教科書のページ	
前期 30時間	1学期 26時間	1	鑑賞／全	人はなぜ、描き、つくるの だろう？	幼少期からの表現活動を振り返り、教科書の作家の言葉や表現活動から、これからの自分と美術の関わりイメージをもつ。	5～7, 全
		2	鑑賞／全	「教科書」を鑑賞する (AR機能の体験含む)	教科書そのものを鑑賞の対象として扱い、気づいたことを話し合う。スマートフォンやタブレットなどが使用できれば、AR機能を使って現代美術作品などを鑑賞する。	全
		1	表現／映像 メディア表現	日常を見つめ直す	デジタルカメラやスマートフォンなどを使って、身の回りの世界を見つめ直し、思いや感動を表現する。	56～57
		12	表現／ 絵画・彫刻	身近なものや風景を描く	身近なものや校内の風景の中から心ひかれる対象を見つけ、構図や視点を工夫してあらかず。前時の写真も活用しつつ、対象をよく見つめ、その特徴を表現する力を育てる。	8～17
		10	表現／ 絵画・彫刻	野菜カービング ～塊から彫り出す～	自分の好きな野菜を選び、その特徴を捉えて彫刻をつくる。パルサ材やスタイロフォームの塊から彫り出し、着色して仕上げる。	30～31
	夏季休業	鑑賞／ デザイン	街中の広告レポート (夏季休業中の課題)	身近な広告がどのような目的でつくられ、どのような表現上の工夫がなされているか、制作者の立場で観察し、レポートにまとめる。	38～43	
後期 40時間	2学期 28時間	4	表現／ デザイン	文字とデザイン	文化祭やオープンスクールのロゴをデザインし、文字やマークを使って情報やイメージを効果的に伝える力を育てる。	38～39, 72～73 79～80
		10	表現／ デザイン	ポスターのデザイン	文化祭やオープンスクールのポスターをつくる。見る人を引きつけるように、構図や配色を工夫し、効果的にあらかず力を育てる。	40～41, 72～73 79～80
		13	表現／ デザイン	情報伝達のデザイン／ 紙を生かしたデザイン	直感的に情報を伝えるマークやピクトグラムをデザインする。紙の特性を生かしたパンフレットにそれらを取り入れ、文化祭やオープンスクールで来場者に配布する。	42～43, 46～47 72～73, 79～80
	3学期 16時間	1	鑑賞／映像 メディア表現	写真の発明からメディア アートへ	写真の発明、技術の発展と、美術表現の関係性について、映像機器なども活用して鑑賞する。	54～63, 84
		14	表現／ 絵画・彫刻	想像してあらかず未来の 自分	近い将来の自分の姿を想像し、現在の姿を基にしながら自画像として表現する。	20～25
	2	鑑賞／全	現代の美術	現代の美術の多様性とその背景について知ること、作品に対する自分の考えをもつとともに、美術文化などについての理解を深める。	全	

配列のタイプ

- 1年間で、A表現、B鑑賞の各学習活動を偏りなく行う。
- 6～14時間程度の長めの時間をかけて取り組む題材を設定し、生徒の探究心・向上心にこたえられるようにする。

特色

- 学校生活に関わる題材を設定することにより、美術を生活に生かしていく視点をもてるようにする。

計画作成上の留意点

- 「デザイン」と「映像メディア表現」については、「映像メディア表現」において目的や機能などを考えた表現を取り扱う場合、「デザイン」といづれか一方を選択して扱うことができる。（学習指導要領解説p.61）